

2020年11月21日  
学術会議会員任命拒否問題と学問の自由

## 権力の論理と学問の自由の論理 —日本学術会議会員任命拒否の政治的側面—

石川捷治（政治史研究者、九州大学名誉教授）

### はじめに

なぜこの問題が、菅政権の最初の大仕事（突破口）なのか？  
この問題の位置づけの切迫性・深刻さ（私たちの認識が追いついていない）

### I 安倍・菅政権の目指すもの・・・権力の論理

- (1) 菅政権誕生の意味・・・安倍氏チャンスで失敗、このままでは辞任後法的責任も
- (2) 安倍・菅政権を貫く性格・・・『半クーデター』政権である。  
『半クーデター』とは、軍隊を使わない「クーデター」（半分のクーデター）  
議会制民主主義の軌道からの意識的離脱行動、その目標は「改憲」  
2014年7月集団的自衛権行使容認（閣議決定）・・・「半クーデター」の起点  
2015年9月 安保関連法強行採決・（これらにはアメリカの強い要請が存在）  
その構造と政治力学・・・人事権  
自民党内部の変化、官僚（山本庸幸氏の回想）、民衆・・・空気
- (3) 「あの時代に戻させない」という「新しい人民戦線」の今日の出発点  
2015年以降・・・ホップ、ステップ、そして・・・
- (4) 2017年3月 学術会議「軍事的安全保障研究に関する声明」発出

### II 菅政権の闘っている相手（「敵」）は？

- (1) 佐藤優氏の見方・・・「標的」民科法律部会員＋「まぶし」？  
「情報を扱う官僚」無意識の「欲動」・・・映画『新聞記者』のリアリティ
- (2) 戦前の「人民戦線事件」  
1937年（第1次）、1938年（第2次）484名、加藤勘十、山川均、向坂逸郎、/  
大内兵衛、有沢広巳、宇野弘蔵、美濃部亮吉、佐々木更三、江田三郎
- (3) 現代日本の「新しい人民戦線」の動向  
「ジャンプ」山頂（「連合政権」による政権交代）を狙える時点に到達しているが？

### III 希望はどこに・・・学問の自由の論理

社会における多様性の確保。戦前の反省から、憲法に学問の自由が明記され、学術会議の独立性が保障された。学問の自由の論理を体現するのが、「新しい人民戦線」である。